

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070101518
法人名	社会福祉法人紀三福社会
事業所名	グループホーム紀三井寺苑
所在地 (電話番号)	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3 (電 話) 073-445-7578
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 8月 10日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.4人

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	新築/改築
建物構造	鉄骨平屋造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	<u>有</u> 100,000円)	—無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.4 歳	最低 67 歳	最高 85 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川崎医院、さくらクリニック、青木整形、川崎歯科、福外科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりのペースを尊重し、それぞれの趣味や楽しみごとを支援している。また過去の生活歴や経験を活かし家事などの役割を担ってもらい、時には職員が教えてもらったりして、お互いに支えあう関係を作っている。利用者の体調に合わせ周辺の散歩やドライブ、小旅行など外出する機会を設け職員が支援している。利用者個々にあったケアを行っており、利用者は明るくのびのびと暮らしている様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価で入居者・家族に対しホームでの権利・義務の説明文を作成するよう指摘を受けたことについては、契約書に明記されていた。生活空間としての畳コーナーや、ソファの設置については、職員が工夫し、カーペットや手づくりの椅子を置いて対応していた。食事を職員も利用者と同じようにするようとの指摘には、ホームの職員はその方向に努力している。入浴時間を決めず希望に合わせて、ゆったりした入浴を支援するようとの指摘には、現在、できる限り希望に合うようにし対応している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が分担して自己評価を行い、管理者がそれをまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の構成メンバー間で情報交換を行ったが、家族からの利用者の将来についての要望にホーム側から回答している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情処理委員会を設置している。家族から意見や苦情等を聞いた場合は、ホーム内で速やかに対応し、今後の運営の参考としている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや学校の運動会、文化祭等に参加したり、法人全体の夏祭りには地元の人々が来てくれるが、自治会や老人会の地域活動へは参加していない。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の過去をよく知り、尊重し、個々にあったケアを行い、笑顔で明るく楽しく過ごしていただく」ことを趣旨とし、独自の理念をつくりあげている。	○	ホームに地域との交流が重視されることになったので、地域密着型サービスとしての役割を、これまでの理念に付加することが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関を入ったところに掲示し、毎朝申し送り時に全職員が唱和し、日々の業務の中で実践するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる祭りや、学校の運動会・文化祭に参加したり、また法人全体で行う夏祭りなどには、地域の住民が参加し交流している。なお近辺の保育所や幼稚園児も訪問してくれて交流している。	○	今後は、自治会や老人会などへの参加も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員がそれぞれ担当し、管理者がそれをまとめた。前回の外部評価の指摘事項は職員の努力により改善の措置がとられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し、構成メンバーで情報交換している。席上家族の参加者からの要望があり、ホームはそれに沿って取り組むことを回答している。	○	運営推進会議のメンバーとして、地域の代表の幅を広げたり、市や地域包括支援センターの職員にも呼びかける努力を期待したい。また、評価の改善課題・取り組み等についても報告することが望まれる。なお、議事内容を具体的に記録するよう希望する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とはホーム運営に関する電話やファックスでの問い合わせが主で、職員の行き来にまで至っていないのが現状である。	○	今後も、ホーム運営上の疑義があれば問い合わせなど、連携を密にするよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族には隔月に、ホームでの生活状況や健康状態、月間予定表や写真などを送り、報告している。	○	今後は、職員が異動した場合も家族に知らせるよう希望する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等があった場合は苦情処理委員を設け対応できる旨ホーム内に掲示している。ホームへの意見や苦情に対しては速やかに対応している。	○	利用者家族によっては、意見や苦情等があっても直接言いにくい事情もあるので、市町村の相談窓口や国保連合会等に相談できることを周知したり、また苦情等があれば、それが些細な申し出であっても、内容や対応経過等を記録しておくよう期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ少なくするよう抑えているが退職する場合もある。この1年間で異動や離職があったが、他の職員でカバーし、利用者への影響は殆んど見られなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には試用期間中に職場内で上司がついて業務を教えている。また職員には、研修の機会を多くもてるよう配慮しており、研修記録を記入し業務に活かすようにしている。なお法人内で介護関係の研修が行われており、それに参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームと相互実習を行い意見交換し、参考にして職員がサービス向上の方法を身につけるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに慣れるよう入居前1週間程度お試しの利用をしてもらっている。新しい利用者の話によく耳を傾けたり、その人の心に寄り添うように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は介護される立場だけでなく、職員と一緒に過ごしながら、食事や洗濯の手伝い、また、過去の経験を活かし若い職員に漬物の漬け方を教える等共に、支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や行動をよく観察し、また家族から利用者の情報を聞き出し、それを参考にして、本人の思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日常生活を観察し気づいたことを職員間で話し合い、家族の希望をも踏まえて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに、ケース会議の中で見直している。なお利用者の心身等に変化が生じたときは、家族と話し合い、また職員間で協議して新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の看護師が週1度訪問し、また24時間連絡可能で、利用者の医療・健康面の支援をしている。また利用者同士で温泉や食事に行くなど特別な外出や外泊を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から月一度の往診があり、体調が不良な時は相談することができる。また緊急時や夜間でも連携を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの対応について法人で看取り介護の指針をつくり、主治医と家族で話し合っており、希望があれば法人の訪問看護を利用することもできる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを傷つけるような言動がないよう努めている。また個人情報の保護や秘密保持についても心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の業務を優先させず、利用者一人ひとりのペースや希望に沿って生活できるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はゆっくり時間をかけて、楽しく食べてもらうようにしており、職員は食べ方をサポートしている。また利用者それぞれの能力を活かしながら、食事の準備や後片付けを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はできる限り利用者それぞれの希望に沿った時間に行い、必要なときはシャワー浴にしたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は生活歴や能力、好みを活かし、趣味の貼り絵をつくったり、読書したり、また食事づくり、洗濯物のたたみなどをしており、職員はそれを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調やペースに合わせ、周辺の散歩や景勝地へのドライブなど、戸外に出かける機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることの閉塞感を職員は理解しているが、周辺に小川があり戸外へ出ると危険なので、やむを得ないときは玄関に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	所轄消防署の協力により、法人の他施設と合同で年1回避難訓練を行っている。また災害時の職員の分担も決めている。しかし地域の人々への協力や理解を得るための働きかけは行っていない。	○	今後、災害時の地域の人々の協力や理解への働きかけに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は和食中心のメニューとし、献立を栄養士に見てもらって栄養バランスに配慮している。また水分の摂取量も把握しており、不足する場合は補充するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作った貼り絵を壁にはったり、新聞や雑誌を置いたりして家庭的な生活感を出すよう配慮している。また共同空間の音や光の強さも適している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族の協力により、人形や、造花、折り紙で作ったものなど、利用者ごとに好みの物を置いて、居心地よく過ごせるような配慮がされている。		